

## 【原著】

## 臨地実習における看護学生の身だしなみに関する意識調査

野中浩幸、加納みなみ

岐阜医療科学大学 保健科学部 看護学科

(受付：平成 23 年 4 月 4 日)

(受理：平成 23 年 4 月 18 日)

## 要 旨

東海地方 A 県にある医療系大学の看護学科では、臨地実習における基本的な身だしなみとして、茶髪を禁止し黒髪で肩にかからないことや、ピアス、ネックレス、指輪などのアクセサリ装着は行なってはならないとの指導を行なっている。また、それが学生としてのあるべき姿であるという教育方針をとっている。

実習病院でも、身だしなみに関する規律を定めているが、常識の範疇で個人の自覚と判断に委ねられている場合が多い。

身だしなみに関する先行研究では、患者や家族、一般市民との比較において許容度に差があることが明らかになっている。

本研究は臨地実習を終えている看護学科 4 年生に、学生がもつ髪型や髪色、化粧、アクセサリなどに対する身だしなみのイメージや許容度、臨地での看護師の身だしなみに対する思いについてのアンケート報告である。

アンケート回収率は 90.6%であった。

**キーワード：**身だしなみ、臨地実習、看護学生、許容度、茶髪

## 目 的

東海地方の A 大学看護学科生は、3・4 年次からの領域別臨地実習で、患者・家族・看護師・医師や他のコ・メディカルスタッフとかかわりながら実践的学習を積み重ねていく。

実習に臨む前に身だしなみについては厳格な指導を受けるが、医療現場では医師や看護師の中には髪を茶色に染め、指輪、ネックレスなどの汚染源となりうるアクセサリを身に着けていることがある。

身だしなみに関する先行研究<sup>1-4)</sup>では、患者・家族・一般市民との間には許容度の差があるとしている。本研究は基本的な指導を受けた学生が理想とする姿と、臨地の看護師像との間に違和感が生じていないかを調査し、今後の臨地実習の身だしなみ指導の一助にする。

## 対象と方法

1. 対象：A 大学看護学科 4 年生 75 名。
2. 期間：平成 22 年 12 月。
3. 調査方法：臨地実習修了後、アンケートによる調査（質問紙法 17 項目）。髪型モデルは先行研究（山田ら、2008）で作成された髪型見本 1~10 を使用。
4. 任意参加で記入済み用紙は、指定回収箱への投入を依頼。結果は項目ごとに集計、分析した。

## 倫理的配慮

調査協力は自由意思で、実習評価は終了しており参加しないことによる不利益は生じない。無記名、統計情報は個人が特定されないよう連結不可能匿名処理を行なう。回答内容は研究以外には使用せずシュレッダー裁断する。

研究結果は学会誌や学会等で発表する旨を記

載した説明文を配布し口頭で説明、回収箱にも貼付した。

**結 果**

アンケート票回収率 90.6% (68 人)。

I . 各設問の回答は以下のとおりである。

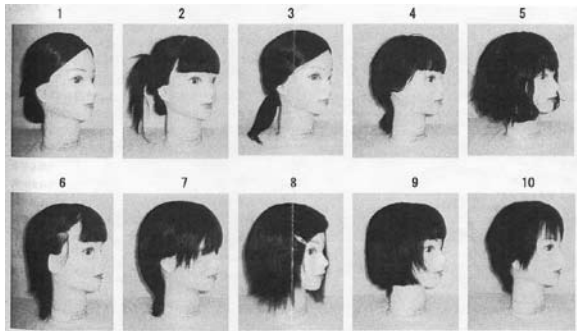


図 1 髪型見本

**設問 1 好ましい髪型 (表 1)**

好ましい髪型は、見本 1 で 94.1%、10 が 76.5%と高く、6・4・9 は 32.4%~23.5%。

**設問 2 好ましくない髪型 (表 1)**

好ましくない髪型は、見本 7 が 86.8%と高く、5・8・2・3・9 は 75%~39.7%であった。

**設問 3 清潔感がない髪型 (表 1)**

清潔感がない髪型は、見本 5 が 64.7%、7・8 も 58.8%~57.4%と半数以上を占めた。

表1 好ましい・好ましくない・清潔感がない髪型 (複数回答可)

見本	好ましい		好ましくない		清潔感がない	
	人	率	人	率	人	率
1	64	94.1%	0	0%	1	1.5%
2	8	11.8%	43	63.2%	28	41.2%
3	10	14.7%	30	44.1%	16	23.5%
4	19	27.9%	14	20.6%	8	11.8%
5	3	4.4%	51	75.0%	44	64.7%
6	22	32.4%	18	26.5%	10	14.7%
7	6	8.8%	59	86.8%	40	58.8%
8	7	10.3%	45	66.2%	39	57.4%
9	16	23.5%	27	39.7%	20	29.4%
10	52	76.5%	2	2.9%	3	4.4%

**設問 4 看護学生に求めるイメージ(複数回答可)**

学生自身が求めている像は、1) 清潔感が 85.3%、3) 明るい 76.5%、5) まじめ 67.6%、2)

やさしい 66.2%と 4) 信頼できる 66.2%が同じ割合で、7) おしゃれ 39.7%、6) 活動的・8) 個性的・9) 怖い・10) 目立つは 8.8%~1.5%だった。

**設問 5 看護学生が茶髪にしていることについてどう感じるか**

1) 賛成 2.9%、3) 自由 7.4%が約 1 割で、2) 条件 88.2%、4) 反対 1.5%。

**設問 6 茶髪を許容できる条件 (複数回答可)**

4) 色の程度 86.8%、1) 清潔感がある 75%、2) 応対・対応 50%、3) 仕事ができる 35.3%、5) 顔に似合う 14.7%。

**設問 7 茶髪に反対の理由**

不快感があると 1 名が回答。

**設問 8 感じがよいと思う髪色 (複数回答可)**

染めない 55.2%、①ダークブラウン 89.6%、②イエローブラウン 56.7%、③ピンクブラウン 22.4%、④ブラウン 9%、⑤オレンジブラウンの順で自由でいいは 0%だった。



図 2 髪色見本

**設問 9 看護学生の茶髪のイメージ(複数回答可)**

13 項目を 5 段階 (そう思う・ややそう思う・どちらともいえない・あまりそう思わない・思わない) で回答を求めた。

「そう思う」・「ややそう思う」8) 明るい・陽気が 25%・58.8%、6) おしゃれ 19.1%・42.6%、7) 活動的 17.6%・52.9%、10) 目立つ 29.9%・29.9%で、

12) 怖い 8.8%・19.1%、13) 生意気 5.9%・32.4% の順。

「どちらともいえない」1) 優しい 58.8%、3) 信用できる 75%、4) 清潔 63.2%、12) 怖い 52.9%、2) まじめ 50%、11) 強い 50% の 6 項目が 5 割を超え、13) 生意気 47.1%、9) 大人っぽい 44.1% の 2 項目も 4 割を超えた。

「あまり思わない」・「思わない」2) まじめ 35.3%・8.8%、1) 優しい 16.2%・1.5%・3) 信用できる 16.2%・1.6%、4) 清潔 16.2%・4.4% で、12) 怖い 14.7%・4.4% だった。また、9) 大人っぽい 7.4%・5.9% との回答があった。

設問 10 アクセサリー（指輪・ピアス・ネックレス）をつけることについて

1) 賛成 0%、2) 種類によって 30.9%、3) 自由 8.8%、反対 60.3%。

設問 11 アクセサリーを許容できる条件（27人中）

2) ピアス 55.6%、4) 華美でない 55.6%、3) ネックレス 37%、1) 指輪ならよい 14.8%。

設問 12 アクセサリーに反対の理由

3) 職業上好ましくない 80.5%、6) 学生だから 29.3%、2) 白衣に似合わない 24.4%、5) 不信感がある 24.4%、7) その他 7.3%、4) 話しかけづらい 4.9%、1) 不快感 2.4% の順であった。

設問 13 化粧をすることについてどう思うか

2) 程度によるが 78.5% と 8 割弱を占め、1) 賛成 13.8%、3) 自由 7.7%。4) 反対は 0%。

設問 14 化粧を許容できる条件（複数回答可）

3) 顔色をよく見せる 82.4%、1) 顔に似合っている 80.8%、2) 派手でない 76.5% と高く、4) マナーである 45.6%、5) 種類によるが 35.3% あった。

設問 15-① マスカラ

派手でなければ 51.5%、賛成 25%、自由 13.2%、4.4%、未記入 5.9%、反対 4.4%。

設問 15-② つけまつげ

反対 55.9%、派手でなければ 29.4%、未記入 7.35%、自由 4.4%、賛成 2.9%。

設問 15-③ アイライナー

派手でなければ 54.4%、賛成 16.1%、自由 14.7%、反対 7.35%、未記入 7.35%。

設問 15-④ 口紅

派手でなければ 60.3%、反対 13.2%、賛成 11.8%、未記入 7.4%、自由 7.35%。

設問 15-⑤ マニキュア

反対 75%、派手でなければ 16.2%、未記入 7.35%、自由 1.47%、賛成 0%。

設問 16 化粧に反対の理由

対象なし

設問 17 臨床で働いている看護師の身だしなみ

2) 個人の判断 78.5%、3) 学生と同様 13.8%、1) 関心がない 4.6%、5) 未記入 4.4%、4) その他 3.1%。

## 考 察

髪型の 4 基準（①髪が肩についていない、②髪が目にかかっている、③耳を出している、④毛先がまとまっている）を満たす見本 1 の髪型の選択が 94.1% と高く、見本 10 も 76.5% で先行研究との比較でも大きな差異はなかった。だが、先行研究では 47.9% の見本 3 は 14.7% で、これは髪が一方向にまとめられてはいるものの、肩についているという理由で低い支持になったと考えられる。

看護学生が看護学生に求めるイメージは清潔感が最も多く、次いで明るく、まじめが選ばれた。清潔感自身が感じるものではなく、他者がどう感じるかという感覚的なイメージの問題としてとらえられるといえよう。

茶髪に対しての反対は 1.5%、賛成 2.9%、条件つき 88.2%、自由 7.4% であり、条件は色の程度 88.1% が最も多く、好ましい色はダークブ

ラウン色 89.6%が支持された。また、清潔感があれば染めてもいいと 76.1%が許容している。

感じがいい髪色は、染めない 55.2%と半数以上を占め、黒髪＝清潔感というイメージは残存している。しかし、約半数は条件を満たせば茶髪を許容できると答えており、自己の欲求はさておき、指導された身だしなみを行なう理由として、教員や指導者から注意を受けることがなく、態度評価に悪影響が及ぶことを回避することを目的としていることが考えられる。

アクセサリーは 60.3%が反対し、種類によって賛成が 30.9%、自由 8.8%と 39.7%が許容している。この許容している学生は華美ではなく 55.6%、ピアスならいいと 55.6%が答え、指輪も 14.8%が支持した。反対する学生は、職業上好ましくない 80.4%と考えながら、学生だから好ましくない 29.2%という理由もあった。

化粧に反対する学生は皆無で、むしろ顔をよくみせ、顔に似合っており、派手でなければよく、マナーですらあると肯定的に受け入れられていた。そして、マスカラの反対は 4.8%、口紅 14.3%で、アイライナーも 7.9%と少数だったが、つけまつげは 60.3%、マニキュアも 81%が反対している。

臨床で働いている看護師の身だしなみについては、個人の判断 78.5%が高く、13.8%が学生と同様と考えていたが、関心がないが 4.6%いた。

感染制御の学習を終えている学生が、感染源となりうるアクセサリー装着を行わないことは学習効果のあらわれであるが、臨床の看護師については個人の判断に委ねられていると考えている。職業上または倫理上、それらが好ましくないことだとするならば、学生も臨床の看護師も許容される条件は同じであるはずである。だが、調査ではこの二者間には一線が引かれており、そのことに対する違和感も疑問も抱いていなかった。実習での看護学生の身だしなみについて、茶髪は程度の差はあるが清潔感・明るさ・まじめな印象を与えるものであれば許容され、アクセサリーは学生には好ましくないものの、看護師になれば個人の判断で種類によって

は許容されると考えていた。そして、一部の学生は同一基準の身だしなみは「学生だから」するのであって、看護師として勤務する場合は許容度が広がるとも考えていた。これらの結果から、対人関係が重要視される職業である看護職をめざす学生には、相手に不快感を与えることなく、清潔で明るいことが重要であると同時に、感染制御を踏まえた考え方を身につけられるように指導する必要があることが示唆されたといえよう。

## 謝 辞

本研究にあたりご協力いただいた、看護学生に深謝いたします。

## 文 献

- 1) 山田眞佐美, 米谷陽子, 久保恵子, 他 3 名 (2008): 好感のもてる看護師の髪型 - 病院職員と一般市民への質問調査紙より -, 第 39 回日本看護学会論文集 (看護総合), 233-235.
- 2) 駒井初香, 佐藤とみ子 (2003): 看護師の茶髪の印象と許容度 - 患者と職員の立場からの比較 -, 第 34 回に本看護学会論文集 (看護総合), 69-71.
- 3) 山田眞佐美, 米谷陽子, 久保恵子, 他 3 名 (2008): 一般市民からみた看護師への茶髪許容度, 第 39 回に本看護学会論文集 (看護総合), 230-232.
- 4) 小柳智子, 宇佐美弥, 田之島裕美, 他 3 名 (2006): 看護学生からみた看護師の身だしなみの評価, 第 37 回日本看護学会論文集 (看護総合), 95-97.

連絡先: 野中浩幸  
岐阜医療科学大学看護学科  
岐阜県関市市平賀字長峰 795-1 (〒 501-3892)  
E-mail: nonaka@u-gifu-ms.ac.jp

## A study of the attitude of nursing students toward personal appearance in clinical training

Hiroyuki NONAKA and Minami KANOH

Department of Nursing, School of Health Sciences, Gifu University of Medical Science

### Summary

In a nursing department of a medical college in Prefecture A, the Tokai region, Japan, students are instructed not to dye their hair brown but to have natural black hair shorter than shoulder length, and also not to wear earrings, necklaces, and rings when entering clinical training. These guiding principles on personal appearance for all nursing students are outlined in the education policy of these schools.

Teaching hospitals also have dress codes, but these are mostly left to personal awareness and commonsense.

A previous study on appearance demonstrated that patients, family, and the general public have different acceptance levels of personal appearance.

This study reports the results of a questionnaire survey that was conducted in 4th grade nursing students who finished clinical training to determine the image and acceptance level of personal appearance, in particular, of hair style, hair color, makeup, and accessories, and personal ideas about appearance during clinical nursing training. The collection rate was 90.6%.

(Med Biol **155**: 346-350 2011)

**Key words:** appearance, clinical training, nursing students, acceptance level, brown-dyed hair

Correspondence Address: Hiroyuki NONAKA,  
Department of Nursing, Gifu University of Medical Science,  
795-1 Nagamine Ichihiraga, Seki, Gifu 501-3892, Japan  
E-mail: nonaka@u-gifu-ms.ac.jp

